

木地区 宝地公民館だより



8月19日 夏休み もの作り教室
デコパージュで、オリジナル小物入れ作り

「夏休み もの作り教室」
宝木 3年
平尾 れいか

夏休み中に、宝木地区公民館で小学校の友だちと「デコパージュでオリジナル小物入れ」を作りました。自分の好きな絵を切って小物にその絵がらをはるのがデコパージュです。

わたしは、あげたい人の好きな、がらをはりました。きれいに紙をはる事がむずかしかったけど、みんなと楽しく作る事ができました。

できあがったデコパージュのはこは、お母さんにプレゼントしました。お母さんはよろこんでくれました。今では、アルコールマーカーを入れて大事に使ってくれています。また、こんなイベントがあったら、さんかしたいと思います。



「夏休み もの作り教室」
たからの子児童クラブ
藤本 裕子

夏休み、児童クラブでは朝から子どもたちの賑やかな声がしています。

コロナ禍になって3年。児童クラブでは、いろいろな活動が制限され、夏休みのお出かけ行事やクッキング等ができていません。

そんな状況の中で、公民館のもの作り教室は、子どもたちにとって貴重な経験の一つでした。1年生にとっては、初めてのおでかけです。

いつもは、大人の手を借りたがる子どもたちも、公民館職員さんの説明を聞いて、好きな材料を手に取り、思い思いに黙々と作りあげていく姿に驚きました。

「やれば、できる」子どもたちを発見です。

実用的な作品は、保護者の方にとっても好評でした。

子どもたちにとって、様々な経験は、成長段階においても、とても重要です。コロナ

禍でその貴重な経験の場が、少なくなっています。(本来ならばあってはならないことです。)早く制限のない生活が戻ってくることを願っています。

そして、児童クラブの存在も活動も、地域の方にもっともっと知ってもらいたいと思います。

地域の宝である子どもたち。温かい地域の皆様に見守ってもらい、これからも安心安全に過ごしてほしいと思います。

そんな子どもたちに、様々な体験がさせてあげられる公民館の事業、とてもおすすめてです！

かぎ針編みのショルダーバッグ作り 編み物教室に参加して

水尻 山本 美弥子

今回、初めて公民館活動に参加しました。

編み物の経験が多少あったので軽い気持ちで参加したのですが、いざ始めてみるとなかなか難しく、編んではほどきを繰り返しました。参加さ

れた皆さんも苦戦されているようでした。

そうなる先生は大忙しでしたが、丁寧に教えてくださり有難かったです。

最初の難関をクリアすると後は結構編みやすかったので家で仕上げられた方も多かったようです。2回目に来られていた方も、ほぼ仕上がっており、順調に色々な作品が出来上がりました。

未経験者で参加を迷われている方も、先生が親切に教えてくださいるので、気軽に参加してください。



陶芸教室

手ぶらで参加できますよ
匿名希望

参加費用は、粘土代を含め千円のみ。講師の方の指導があり、仲間作りも出来る。何より、「自分で作ってみたいものがあれば、教えて頂ける」という、自由な空間が大好きです。もちろん、みんなで同じ作品にも取り組んでいます。

私は、しばらく参加出来ていませんが、「芸術の秋」粘土と向き合う時間を、ぜひ確保したいと思っています。

コロナ禍、何をするにも規制があり、おっくうになりがちですが、皆さんも「陶芸」を始めてみませんか？

「経験がないので参加は…」と言われる方には、見学をおすすめします。肌で感じてみてください。

私は次回、お月見用の、ススキを入れる花瓶か、お団子用の器に、挑戦しようかな？
今から楽しみです。



健康と向き合うひと時

初体験ポッチャ

宝木 山根 哲博

7月、ポッチャを体験するチャンスに恵まれた。

ポッチャとは、柔らかいボールを使い、室内で行うパタックに似たスポーツです。

昨年のパラリンピックで、日本チームは個人金、ペア銀、団体銅メダルで注目の種目。

講師は、鳥取ユニバーサルスポーツセンターの山口さん。ルールは簡単。白いジャックボールに赤・青チームのボ



ールをどれだけ近くに寄せるかだ。簡単なルールだ。誰でも参加出来るぞ。

投げてみるとなかなか難しく、繊細で頭を使い体を使うスポーツだ。攻略の仕方を考え、力加減、角度、方向、ガードなど全てが整って攻略出来た時の達成感と喜びは、他のスポーツと一緒にのものです。皆さんも是非一度やってみてください。とても障がい者スポーツとは思えません。

なお、今回の企画は健康と向き合うひと時の企画でした。毎月、健康相談や、体重、血圧測定やってるよ。



夏休み わくわく体験に参加して

奥沢見 4年

寺島 勇斗

ぼくは、4年生になって、はじめて、わくわく体験に参加しました。

宝木地区の4年生以上しか参加できないので、去年から楽しみにしていました。今年もコロナ禍でおとまり隊は中止でした。

その分力又ーでおもいきり楽しみました。舵をとるのは、むづかしく、なぜかみんなが同じ場所に集まってしまった。魚やザリガニを見つけたりしてとても楽しかったです。けしゴムはんこ作りでは、エッフェルとうのはんこや魚のはんこを作りました。はじめてのちようこく刀を使うのがこわかったけど、けがをせずに使えてよかったです。



とても楽しかったので、来年もぜひ参加したいです



夏休みわくわく体験に
ボランティアで参加して
ある発見

宝木 小塩 信親

猛暑が続く夏の日、小学生の力又ー体験にサポーターとして参加した。二回目である。指導員のレクチャーを小学生の後方で一応聞いていた。その後いよいよ小学生達の乗船である。一人また一人と乗り込み離岸して行く。すると

今年は何故か力又ーが一艇余っている。するとどこからか「乗ってみるか？」の声、小型船舶免許保有者としては、沿岸での釣り程度は有るものの、河内川での力又ーは全くの初めてである。

覚悟を決めていざ乗船。サポートを受けながら、何とか乗り込んだ。そして離岸。慣れた船外機ではなくパドルでの操船は私にとって新鮮なものだった。パドルに慣れた頃に感じるのは、水面が非常に近い。



そんな低い視線での景色に新たな発見があった。鉄道の橋脚の数メートル下流に古い橋脚の基礎であろうか鉄筋△キ出して沈んでいた。過去の水害で流された物か？等と勝手に想像をふくらませる。

来年も力又ーは余るのだろうか？余ってほしいな・・・

じげの昔ばなし

水尻池について

水尻 池澤 真一

もともと水尻池は入江で、その頃は奥沢見にある氏神さん（板井神社）の鳥居まで舟で参詣していたという。後、ラグーン現象が進み砂山で隔てられて池となった。湖山池・東郷池・水尻池が県内の淡水魚の有名な生産地だったらしい。大正三年頃から干拓工事が始められたが、海より低いため難行したようである。

ともあれ農期にはポンプで排水を終えるが、時期が過ぎれば放置され、溜るにまかせて冬期は池となる。それを繰り返した。たまたま列車で眺めた人が、「水田だった」「池だった」ともめることがあったらしいが、何のことはない、見た時期のちがいによるのである。

長い稲作の時代も、減反政策のあおりを受けて、養魚池

に転換したが、池を干して漁獲したのは一度切りである。昭和二十年頃、水面利用の申し出が近江八幡市の業者からあり、淡水真珠の養殖をするとのこと。年百万円三年契約で契約した。結果としては、藻が生えすぎて、二年目には藻刈船を入れたし、三年目は草魚を入れ、異常繁殖したが、結局採算がとれないということで撤退した。以後、一時的に増えた草魚も餌の藻を食べ尽して殆んど消え、藻が生えないことで池の水が浄化されず、特有の泥臭さが残る魚となり、見向きをする人も少なくなかった。

利用方法を云々する人がたまにいるが、未だいい案が出て来ない現状である。



水尻池

飛び出すカード作り



子ども事業 スナッフ写真

お宝もちや病院



ちまき作り



編集後記

今年度8月までに開催した事業に参加された方から、感想等の原稿を頂戴しました。事業に参加され、楽しい状況が浮かんでくるようです。また、今回の『じげの昔ばなし』は、水尻池について、書いて頂きました。知らなかった事が沢山あり、とても読み応えのある文章となっています。